

12. 脳梗塞の核医学的診断

森 厚文 前田 敏男

小林 真 久田 欣一

(金大・核)

James H. Christie

(アイオワ大・放)

脳梗塞における核医学的診断は最近の CT の普及にもかかわらず依然としてその有用性を失っていない。今回は脳シンチグラム (static study のみ) について所見分類を試み, 各パターンの特異性について検討を加えた。early と delayed scan の両方を施行することは, 特に後大脳動脈ならびに後頭蓋窩梗塞の診断に重要であった。脳シンチグラム異常を呈した83症例を以下に示すように分類し, 各パターン毎に症例を供覧した。すなわち I) 前大脳動脈梗塞 3 例 (4%), II) 中大脳動脈梗塞 59 例 (71%), 1) fan-shaped 24例, 2) crescentic pattern 7例, 3) terminal branch, a) cortical branch 20例, b) deep branch 8 例, III) 後大脳動脈梗塞 9 例 (11%), IV) 後頭蓋窩梗塞 5 例 (6%), V) 多発性梗塞 5 例 (6%), VI) Water-shed infarction 2 例 (2%) であった。これらのうち両側性前大脳動脈梗塞, 中大脳動脈の典型的な fan-shaped pattern を呈する梗塞, Bunny sign を呈する cortical branch の梗塞, 後大脳動脈梗塞のうち hockey-stick pattern を呈する場合, ならびに両側性の Water-shed infarction は特異的と考えられた。その他のパターンを呈する type は非常特異的であり, 鑑別診断には RI アンジオグラフィー, ^{99m}Tc -リン酸化合物 (骨スキャン用 agent) などの複合検査が必要である。

13. 外骨腫の骨シンチグラフィーの検討

仙田 宏平 今板 孟義

浅田 修市 加藤 敏光

土井 偉誉

(岐大・放)

外骨腫は, 骨腫瘍の中で最も高い頻度で認められる良性腫瘍であるが, 良性であるために骨シン

チグラフィーを施行される機会が少なく, したがって本骨腫瘍についての骨シンチグラフィーのまとまった報告が少ない。

そこで, われわれは, 骨シンチグラフィーを行った単発性および多発性の外骨腫計33例と二次性軟骨肉腫2例について, シンチグラム上の異常集積像の形態的所見を骨レ線写真上の腫瘤影の所見と比較して調べると共に, 異常 RI 集積の程度を患者の年齢, 即ち骨端線の閉鎖状態と比較検討し, さらに本骨腫瘍の悪性化の診断に対する骨シンチグラフィーの有用性を検討した。その結果, 骨シンチグラム上の異常 RI 集積像は, 単発性を多発性の別ならびに年齢によって一定の傾向を示し, 外骨腫の増殖程度をよく反映することを認めた。また, 悪性化が疑われた外骨腫では, 異常 RI 集積像が濃淡不均一で, 年齢に比べて高い RI 集積を示した。

14. 塩化インジウムによる骨髄シンチグラフィー (^{99m}Tc -スズコロイドとの対比)

油野 民雄 上野 恭一

利波 紀久 久田 欣一

(金大・核)

中村 忍 服部 絢一

(同・三内)

清水 博志

(同・放)

【目的】 $^{111}\text{InCl}_3$ による骨髄シンチグラムは真に体内の造血髄分布を示すか否か, その骨髄集積動態が問題視されてきた。そこで, 今回, 造血髄分布と RES 骨分髄布所見の不一致が生ずるとされる再生不良性貧血と軽度放射線被爆症例を対象とし, 放射性鉄と RI コロイドの場合と同様, $^{111}\text{InCl}_3$ と RI エコロイドイメージ間に不一致所見が生ずるか否か検討した。

【方法】 $^{111}\text{InCl}_3$ 骨髄イメージは, $^{111}\text{InCl}_3$ 2 mCi 静注 48 時間後に, ^{99m}Tc -コロイドイメージは ^{99m}Tc -スズコロイド 10mCi 静注 30 分後に, それぞれ Picker 社 Dyna Camera を用い omniview